

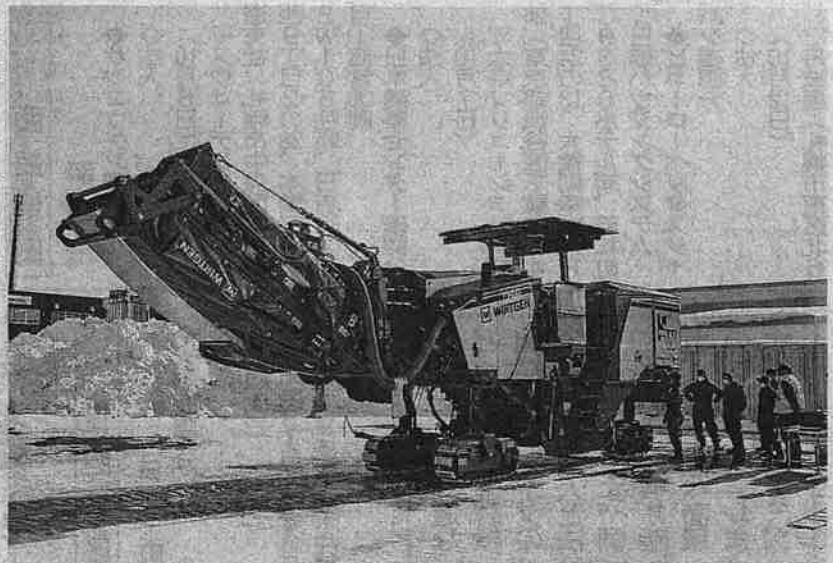
ドイツ製路面切削機導入

今日和が道内初

バックホーなど投入不要、工期短縮に

今日和（本社・札幌）は、ドイツ・ヴィルトゲ

ン社製の大型路面切削機 W210Fi を道内で初めて導入した。コンクリート床版にも対応できる



力強い切削能力が特長。橋梁の修繕や道路の打ち換えなどで広く使ってもらいたいと考えた。

アスファルト基層やコンクリート床版を力強く削る

W210Fiは、切削能力に優れる大型路面切削機。アスファルト舗装は表面だけでなく基層まで切削でき、バックホーなどを投入する必要がなくなり、工期短縮にも寄与する。コンクリートを削ることもでき、橋梁の修繕でも導入が見込まれる。空港の滑走路などを整備するサポート要員としても活用してもらいたいと考えた。

車体前方から廃材を排出するコンベアは左右65度ずつ動き、交差点など作業しづらい場所でもダンプに廃材を積み込むことが可能。廃材を送り込

む弾道を高くしたり広くなるよう、ベルト速度を一時的に上げることもできる。

ディーゼルエンジンは最大出力766馬力とパワフルながら、酸化触媒の後処理装置を備えることで欧州の排出ガス規制をクリア。現場内を移動するときの騒音も低い。夜間作業がしやすい

よう、機械各所に高輝度LEDを配備する。

車体上部のキャビンに機械オペレーター、側部の操作盤に地上アシヤストスタッフを配置し、2人一組で作業。作業者のほか、近くを通る歩行者や一般車両のドライバーが粉じんを吸ったり視界を遮られないよう、油圧モーターで駆動するプロ

ワ集じん装置を採用する。

同社は8月に設立20周年を迎える。河村寿幸社長は「会社立ち上げ時から、いつか欲しいと思っていた機械。新年度は防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策が始まるため、道路や橋梁の修繕・更新などに貢献したい」と話している。